

第7回 茂原市議会報告会



撮影：令和5年2月 1日（水） 13：30～ 議場

配信：令和5年2月15日（水） 9：00～ 市議会ウェブページ

目 次

【議事概要】

1. 議長挨拶 中山 和夫 議長	p. 2
2. 予算要望書報告 田畑 毅 副議長	p. 2
3. 議会報告会趣旨説明 杉浦 康一 議会運営委員会委員長	p. 3
4. 議会報告	
(1) 常任委員会の審議について (令和4年3月定例会から令和4年12月定例会)	
・総務委員会 向後 研二 委員長	p. 4
・教育福祉委員会 鈴木 敏文 委員長	p. 5
・建設経済委員会 金坂 道人 委員長	p. 6
(2) 特別委員会の審議について	
・水害対策特別委員会 常泉 健一 委員長	p. 7
・茂原駅周辺活性化特別委員会 鈴木 敏文 委員長	p. 10
5. 意見紹介 西ヶ谷 正士 議会運営委員会副委員長	p. 11
6. アンケート集計結果	p. 13

【議事要旨】

1. 議長挨拶 (要旨)

中山 和夫 議長

茂原市議会では、議会改革、議会活性化を積極的に進めてきた。その一環として、私たち地方議員のあるべき姿、果たすべき役割、そして、達成すべき使命を明確にした「茂原市議会基本条例」を制定し、より開かれた議会、市民の皆様に信頼される議会を目指し、さらなる活性化に努めていく。

今回の議会報告会は、残念ながら新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、昨年度に引き続き、オンラインでの実施となった。本年度の新たな取り組みとして、議員同士で議論を重ね、意見を取りまとめ市長に提出した「令和5年度当初予算に関する要望書」についての報告や、令和4年3月定例会から12月定例会の各常任委員会に付託された案件、特別委員会の審議内容、市民から寄せられた意見について報告する。

議会活動の一部ではあるが、議会をより身近なものに感じてもらいたい。

2. 予算要望書報告 (要旨)

田畑 毅 副議長

令和5年度当初予算に関する要望書を令和4年10月21日に市長に提出した。3つの常任委員会に分かれて議論した内容を総務委員会、教育福祉委員会、建設経済委員会の順に報告する。

まずは、総務委員会。

1. 歳入の確保を図ること

1. 防災体制の充実を図ること

1. 職員の資質向上、専門職員の人材確保と専門的な組織体制構築を図ること

次に、教育福祉委員会。

1. 子ども医療費助成事業の拡充を図ること
 1. 学校給食の食材費高騰分の支援を図ること
 1. 学校給食費等の公会計化により、教職員の事務負担軽減を図ること
- 最後に、建設経済委員会。
1. 内水対策事業の早期完成を図ること
 1. 真名団地の早期移転を図ること
 1. 地籍調査の早期実施を図ること
 1. 街路事業の早期完成を図ること
 1. インターチェンジ周辺の整備計画の策定を図ること

以上、11点の項目について市議会からの要望として市へ提出した。

3. 議会報告会趣旨説明 (要旨)

杉浦 康一 議会運営委員会委員長

茂原市議会基本条例で述べられているとおり、議会の「説明責任を果たすとともに、市民のみなさまの多様な意見を的確に把握するための情報及び意見交換の場として」、このたび、第7回の議会報告会を開催することとなったが、今回も引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応のため、会場での報告会ではなく、録画配信での報告会とした。

まず、総務、教育福祉、建設経済の各常任委員会の委員長から、昨年1年間に開催した各常任委員会の報告を、続いて、水害対策、茂原駅周辺活性化の各特別委員会の委員長から、昨年1年間に開催した各特別委員会の報告を行う。最後に、「意見紹介」として、市民からの意見の一部を紹介する。

4. 議会報告

(1) 常任委員会の審議について

(令和4年3月から令和4年12月定例会)

○総務委員会

【報告者】 向後 研二 委員長

所管事項及び委員紹介（略）

昨年中に開催された各定例会において、本委員会が審査した議案等 2 3 件について、抜粋してその主なものを報告。

① 6 月定例会 議案第 1 号「令和 4 年度茂原市一般会計補正予算（第 1 号）」

本案は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ7億3,721万7千円を追加しようとするもので、庁舎維持管理費の修繕や、新型コロナウイルスワクチン接種に伴う補正、公共交通事業者応援事業支援金の内容を確認した。これらの審議の結果、本議案は委員会・本会議ともに全会一致で可決された。

② 1 2 月定例会 議案第 1 号「令和 4 年度茂原市一般会計補正予算（第 4 号）」

本案は、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ9億6,879万3千円を追加しようとするもので、燃えるごみ専用袋配付事業の概要を確認するとともに、今後も全市民への支援拡大を要望した。また、エネルギー価格の高騰により、教育費全体で約 1.8 倍を見込んだ光熱水費の補正予算であることや、翌年度以降も価格の下落が見込めず経常的経費が増えた場合、財政調整基金を充てて対応せざるを得ないことなどを確認した。これらの審議の結果、本議案は委員会・本会議ともに全会一致で可決された。

また、11月8日、9日には静岡県島田市と富士市へ行政視察に伺った。

島田市では防災マイスター育成、自主防災組織、避難所運営、SNSを活用した取り組みなど、防災対策について学び、職員率先の行動と意識が危機管理対応力を高めていること、防災に対する市民の意識レベルが高いことなど、島田市の取り組みを本市でも生かしていきたいと感じた。

富士市ではテレワーク移住アシスト、ポータルサイト運用について学び、庁内 9 課で組織する移住定住戦略執行会議での連携の強化、移住者の気持ちに寄り添

った対応などにより、大きな成果を上げているとのこと。産業で栄え、温暖な気候や地理的優位性など本市と共通する部分が多い富士市だが、担当職員の熱意や庁内推進体制には脱帽せざるを得ないほど見習うべきものがあった。

○教育福祉委員会

【報告者】鈴木 敏文 委員長

所管事項及び委員紹介（略）

昨年中に開催された各定例会において、本委員会が審査した議案等21件について、抜粋してその主なものを報告。

①3月定例会 議案第6号「令和4年度茂原市特別会計国民健康保険事業費予算」

本案は、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ100億1,552万1千円とするもので、対前年度9,074万4千円、0.90%の減とするもので、審査において、納税コールセンター業務委託料減額の理由や財政調整基金繰入金と繰越金の計上方法を大きく変えた理由等への質疑に対し、より目に見える形にするため、今後は多額の余剰金を繰り越さず、国保財政調整基金へ繰入れていくとの答弁があった。審査の結果、委員会では全会一致、本会議では賛成多数で可決された。

②3月定例会 議案第17号「茂原市立小学校設置条例の一部を改正する条例の制定について」

審査の過程において、新治小学校の現状についての質疑や統合へ向けての進め方等の意見があり、審査の結果、委員会、本会議ともに賛成多数で可決された。

また、10月27日には大阪府守口市へ「幼児教育・保育の無償化について」、28日には奈良県生駒市へ「介護予防・日常生活支援総合事業について」行政視察に伺った。

守口市では、無償化と併せて保育の受け皿確保や教育・保育の質の維持・向上に向けた取り組みを行うことにより、子育て世代の人口増加に繋がっているとの説

明を受けた。生駒市では、超高齢社会に向け、関係機関・関係者・住民と協働した地域包括ケアシステム構築への取り組みについて説明を受けた。いずれも本市にとって多いに参考になる有意義な視察となった。

○建設経済委員会

【報告者】金坂 道人 委員長

所管事項及び委員紹介 (略)

昨年中に開催された各定例会において、本委員会が審査を行った議案等19件について、抜粋してその主なものを報告。

①6月定例会 議案第3号「茂原市営住宅管理条例の一部を改正する条例の制定について」

審査において、DV被害者の入居要件や入居までの期間などについての質疑応答がなされた。また、「火災等により市営住宅を使用することもあることから、早期に入居できるよう部屋の確保について検討されたい」との意見があった。これらの審査の結果、本議案は委員会・本会議ともに、全会一致で可決された。

②12月定例会 請願第3号「インボイス制度（適格請求書等保存方式）の延期を求める意見書提出を求める請願について」

審査の過程において、インボイス制度導入の経緯や背景、周知期間などについての質疑応答があり、「請願者は制度について反対ではなく、制度の延期を望んでいる。国は来年の税制改正で支援措置を検討するという報道がなされており、国の動向を注視する必要があることから、継続審査にすべきである。」との意見があった。以上の審査経過を踏まえ、請願第3号は、継続審査とすることと決定された。

また、昨年10月26、27日には行政視察として、新潟市、三条市を訪れた。両市とも歴史的に川の氾濫による水害により多大な被害を出した地域で、河川の改修のみならず、水害対策の一つとして実施し成果を上げている田んぼダムにつ

いて、考え方、設計・設備、効果、予算措置など非常に多くのことを学んできた。茂原市でも一部地域で田んぼダムの実証実験が行われており、今回の視察の成果を生かした施策を進めていけると確信した。

続いて、各特別委員会の報告に入る前に、昨年審議した議案等のうち、各常任委員会に付託されなかったものの中から、主なものを杉浦議運委員長から報告。

9月定例会の発議案第1号「二級河川 一宮川水系河川の整備促進に関する意見書の提出」について及び発議案第2号「二級河川 赤目川の整備促進に関する意見書の提出」については、本市における最優先課題である浸水被害の解消を図り、市民の生命と財産を守るため、河川改修の整備促進とそのため的大幅な予算の確保を要望すべく、国及び県へ意見書を提出しようとするもので、本会議において、全会一致で可決された。国土交通省、財務省、千葉県へ意見書を提出するとともに、令和4年12月21日には、中山議長をはじめとする議員団が千葉県選出の国会議員に要望書を提出し、意見交換を行った。

(2) 特別委員会の審議について

○水害対策特別委員会

【報告者】常泉 健一 委員長

委員紹介 (略)

令和4年7月26日に、千葉県県土整備部職員及び市当局職員の出席のもと委員会を開催。はじめに「早野排水機場」、「八千代橋付近の工事箇所」、「ほほえみ橋付近の工事箇所」、「赤目川A調節池」、「赤目川萱場地先の工事箇所」の現地視察を実施した。

視察後は、「激特事業の進捗状況及び今後の見通しについて」千葉県から説明を受けた。まず、瑞沢川合流点から下流の河道掘削区間は、今年度堆積土撤去を予定。今後護岸工事を進めていく予定とのこと。次に、下流域用地については現時点で約8割を取得。残る約2割についても早期取得に向けた対策を検討している

とのこと。次に、瑞沢川合流点から鶴枝川合流点の河道拡幅区間用地は、約7割の用地契約を締結、引き続き用地取得を進めていくとのこと。また、河道拡幅工事については、現在橋梁架け替えに着手しており、用地取得の状況を踏まえながら、各種工事を発注する予定とのこと。中流域においては、早期の治水効果を発現させるため、河道内の竹木伐採や堆積土撤去、第二調節池15万 m^3 の暫定供用、危機管理型水位計や監視カメラの設置を実施。今後は、第二調節池の貯留容量の拡充、第一・第二調節池の越流堤の暫定嵩上げ、中流域の河道の暫定掘削、堤防嵩上げを実施していくとのこと。短期対策の効果検証のためのシミュレーションを実施した結果、令和元年豪雨に対しては市街地において一部橋梁が通行止めとなるが、外水氾濫は解消、内水氾濫は一部残るため引き続き対策が必要とのこと。今後の予定として、下流域での掘削工事は、令和6年度末の完成を目指すとのこと。中流域の瑞沢川合流点から鶴枝川合流点までの拡幅工事、鶴枝川合流点から豊田川合流点までの護岸法立て工事については、いずれも令和6年度末の完成を目指す。第二調節池の増設については、令和5年度末の完成を目指す。

上流域・支川については、浸水対策重点地域緊急事業により今年度から事業を進め、令和11年度末の完成を目指し、地形測量の契約や地質調査を実施、来年度には詳細設計を予定。新設予定の第三調節池については、地元説明会を実施し、地質調査や用地測量を予定。

阿久川については、今年度詳細設計を行い、来年度から工事を行う。豊田川については、今年度詳細設計を行い、工法検討を行う予定であるとのこと。

次に、「赤目川改修事業の状況及び今後の見通しについて」説明を受けた。南白亀川合流点から萱場橋までの河川改修とB調節池の整備が完了、現在は、A調節池の整備と中流部の河川改修工事を実施している。A調節池は、約80%の掘削が完了、今後も掘削工事を進める。中流部は、新桂島堰改築工事を進め、終了後、新桂島堰前後の護岸工事を実施する。新手樋橋付近については、上流部の護岸工事を進めていき、新手樋橋架け替え工事を完成させるとのこと。

次に、市当局より「内水対策の状況について」、「雨水ポンプの能力増強の進捗

状況等について」、「防災対策について」説明を受けた。まず、内水対策について、一宮川流域内において内水を排除する整備済みの排水ポンプは6箇所あり、これまでの大雨による洪水時において、排水ポンプの稼働により内水浸水被害の軽減が図られているとのこと。平成25年台風26号の浸水被害を契機に実施した4箇所の排水ポンプ整備について、東郷地先水門ポンプゲートと長清水水門ポンプゲートが完成。早野排水機場が令和4年6月に、鷺巣 稻荷前水門ポンプゲートは8月末にそれぞれ供用開始しているとのこと。令和元年水害を契機に取り組む内水対策については、令和2年度に実施した総合的内水対策検討業務に基づき令和3年度に早野水門、早野明光、酒盛橋樋管、道目亀水門4箇所の排水施設基本計画を策定し、今後、工事实施に向け詳細設計を実施したいとのことであった。

次に、事業実施中の笹塚地区排水ポンプ能力増強については、令和5年度にポンプ整備を予定。大芝樋管の改修については、県が実施する激特事業期間に合わせて完成したいとのことであった。

次に、明治橋の架け替えについては、桁下高が河川の計画高水位より低いことが判明し、河川の流れを阻害する恐れがあることから、市として洪水被害のリスクを軽減するため早急な対応をする必要があるとして、架け替えを実施することであった。

次に、川中島終末処理場の雨水ポンプ能力増強については、平成29年度より整備を進め、既存の雨水ポンプ4台中3台の能力を増強し、排水能力が増強され、最後の3台目が令和5年度に完成する予定である。今後は、町保ポンプ場や道目木ポンプ場における浸水対策に取り組んでいくとのことであった。

次に、防災対策について、備蓄品等の整備状況についてはアルファ米等が約6万食分、飲料水がペットボトルで約2万3千リットル、生活用機材等は毛布約5,300枚、エアベッド560台、救助用機材等は発電機が121台となっている。防災行政無線については、難聴地域の更なる解消のため、親局の出力を増強する電波環境改

善工事を予定しているとのことであった。

○茂原駅周辺活性化特別委員会

【報告者】鈴木 敏文 委員長

委員紹介 (略)

本委員会では、昨年11月に委員会を開催し、茂原駅周辺の活性化に寄与する、「茂原駅前通り地区 土地区画整理事業」並びに「都市計画道路 桑原八千代線」の進捗状況等の報告を受け、調査研究を行った。

まず、茂原駅前通り地区土地区画整理事業の進捗状況については、令和4年度は、6箇所、7棟の建物移転補償を実施、執行見込額は、1億6,170万円で、年度末の累計執行率は事業費ベースで45%、年度末の建物移転補償数は、全棟数267棟の内117棟で、補償率は44%となる見込みである。今後の整備方針としては、「高師町下井戸線」は、来年度以降5箇所の建物移転を行い、早期に開通できるよう新設道路整備の準備を進める。「ひこぼし線」は、今年度建物移転を実施したことにより、この路線の建物移転は完了した。今後とも事業効果が形として目に見えるように、区域内を通る「高師町下井戸線」と「ひこぼし線」の早期完成を図ったうえで、区域内外の来客者や通行者を増やし、土地利用の活性化につなげたいとのことであった。

次に、都市計画道路桑原八千代線の進捗状況について、本事業は、JR茂原駅北側の県道茂原長生線から、都市計画道路大芝鷲巣線までの総延長1,093m、幅員16mで、北から桑原地区、継続地区、野巻戸地区の3区間に分けて事業を実施している。桑原地区においては、令和5、6、7年度で、引き続き用地取得及び補償を進めていく。継続地区においては、昨年度に用地取得ができた箇所の工事を今年度中に着手していく。この工事により、イオン開発道路と接続し、茂原駅南口方面へ繋がることとなる。また、懸案事項となっていた共有地については、権利者全員から事業に対する協力が得られたため、共有地の用地取得を進め、取得後は、速やかに道路工事を発注予定で、来年夏頃の完成を目標としている。野巻戸地区においては、次年度以降、測量及び設計を実施し、県警と国道128

号交差点接続部の協議及び、その結果に基づく事業認可変更を進めていくとのことであった。

5. 意見紹介

【報告者】西ヶ谷 正士 議会運営委員会副委員長

市民より事前に寄せられた意見のうち、いくつか紹介していく。

はじめに、水害対策に関する意見を紹介。

「水害により、自分の家が河川敷のような状態になってしまうので、河川改修をきちんとやってほしい。これから温暖化が進み、強力な台風が発生してくることも考えられるので、早急な対策を進めてもらいたい。」

市議会としては、水害対策特別委員会を設置し、千葉県、市当局と連携を図っている。今後も誰もが安全安心に暮らせるまちづくりのために努めていきたいと考えている。

続いて、空き公共施設の活用及び高齢者の交通手段支援に関する意見を紹介。

「学校は地域にとってコミュニティーの中核であり、財産である。統合によって空いた学校施設を、不登校特認校として活用してはどうか。地域のまちづくりとして地域みんなで未来の子ども達を支えていけたらと思う。」

「高齢者に市バス等の半額パスを支給し、高齢者の外出を助けることで生活の質が向上し、フレイル予防や買い物等による商業の活性化の波及効果も期待できるのではないか。」

市議会としては、公共施設の利活用や高齢者支援の充実について、引き続き市当局にはたらきかけていきたいと考えている。

続いて、天然資源の保全に関する意見を紹介。

「持続可能な社会の実現に向け、市民の安全安心な暮らしと財産を守ってほしい。茂原市は、天然ガス等を多く含むガス田に恵まれているが、昨今、海外の方が日本の湧水地を購入しているという。揚水による地盤変状や環境変化が、災害の甚大化、生活環境の悪化など大きな問題を引き起こす前に、早急な対策と法整備が必要。暮らしを豊かにするはずのエネルギーの創出が暮らしを脅かすことにならないよう、行政において対策を。」

市議会としては、持続可能な環境づくりに向け、市当局と協力して取り組んでいきたいと考えている。

最後に、不登校に関する意見を紹介。

「私の子どもは現在小6で、3年生の頃から不登校になった。当初は保健室登校や母子登校等続け、次第に子どもの心が壊れていった。やがて、学習はおろか、日常生活もままならない状態に。苦しい時期を乗り越えた方々が口々に言うのは、傷が浅いうちに対策をとった方が回復が早いということ。自治体によっては、不登校対策が進んでいるところもある。子育てしやすい自治体には人が集まって、税収も上がる。茂原市と千葉大学都市計画松浦研究室で作成した、空き家等を地域の居場所として活用している事例集のリーフレットを見た。とても素晴らしかった。これを絵に描いた餅にしないよう、行政、企業、市民が話し合う場をつくってほしい。」

市議会としては、不登校対策や空き家活用などについても、引き続き市当局にはたらきかけていきたいと考えている。

紹介しきれなかった意見については、要約してウェブページに掲載した。

6. アンケート集計結果

(1. 性別、2. 年代、3. 何で議会報告会を知ったか、4. 内容はどうだったか、5. 感想等)

①

1. 女性、2. 50代、3. 知人から聞いた、4. やや満足

5. 意見紹介で不登校のことを取り上げて下さりありがとうございました m(__)m
是非本議会で議論が進むよう祈っております。

子ども達の未来を守って下さい。よろしく願い致します m(__)m

②

1. 女性、2. 70代～、3. 広報もばら、4. 満足

5.

①令和5年度予算について市長への要望書、議員皆様の総意のもと提出され議会活動の理解が深まりました。今後も続けて頂きたい。

②行政視察を具体的内容も報告いただければと他市の状況も理解でき何を今後に生かすのかわかりやすいと思います。

③対面と動画双方があると当日都合がつかないより多くの方が視聴でき議会に対する理解が深まると思います。

④市政だよりに議会日程や報告会など開催近い号にQRコード付きで載せて頂くとより多くの方に開催を知らせる事が出来ると思います。

③

1. 男性、2. 40代、3. 議会だより、4. 普通

5. 報告については、テロップや図面が表示されるので、非常に分かりやすかった。良い取り組みだと感じた。